

初任者研修開催

4月3日（金）に第1回初任者研修会が開催され、33名の新規採用教職員が参加しました。折笠修平教育長から「初任者教員に望むこと」、藤田剛学務課長から「初任者の心得」、森山秀一指導課長から「日立の学校教育」について講話がありました。講話の後には、「よりよい学級づくりのために」というテーマで講義を行いました。初任者の先生方から、今後の日立市の教育を担う責任の自覚と教職員としての新たな決意を感じることができました。

〈第1回初任者研修会の感想〉

○第1回初任者研修会に参加して、改めて自分が茨城県の教員になったことを実感し、更に気が引き締まった。日立市教育長の折笠修平先生の講話では、「明治から現代まで教育が目指す部分に変化はなく、家庭や地域との連携が教育に最も大切だということ」、また「教えようとするだけではなく、子どもから学ぶことができるものだけが子どもを教えることができるということ」、そして「子どもの無限の可能性を受け止め、引き出すことが教師の仕事である」という話を伺い、これからの教員生活で目指す教師像を教えていただいた。これからの教員生活が楽しみであるとともに責任を感じ、とても勉強になった。

○初任者であろうと、子供や保護者からは一人の「先生」であるということを学んだ。その自覚をしっかりと持ち、児童や保護者と積極的に関わる姿勢を大切にしていきたい。全てが初めての経験なので分からないことの連続であるが、初任者であることを言い訳にせず、分からないことを曖昧に終わらせないように周囲に相談しながら一つ一つ取り組んでいきたい。

○教員として大事にしていきたい三つのことについて確認することができた。一つ目が「見ること」で、二つ目が「聴くこと」である。そして、三つ目は、困った事がある際に一人で抱え込まずに、「支援を求めること」である。学校現場に出てとても大切なことだと思った。分からないことをそのままにしないことが、周りの先生方や子どもたちに迷惑をかけず、自分が成長できる重要な方法なのだと感じる。謙虚な心を持ち、分からないことは積極的に質問し、問題を解決していきたい。



写真：折笠教育長の講話

○この研修を通して、新社会人として子供の頃から十数年夢を見てきた「教員」という立場になったという自覚がより高まった。「子供に寄り添う教師」となれるよう、一人一人ときちんと向き合って過ごしていきたい。生身の人と人が様々な教育活動を通して関わっていく学級・学校づくりに参画できる教員の仕事にやりがいと誇りを持ち、初心を忘れずにこれからの教員生活を送っていききたいと思う。

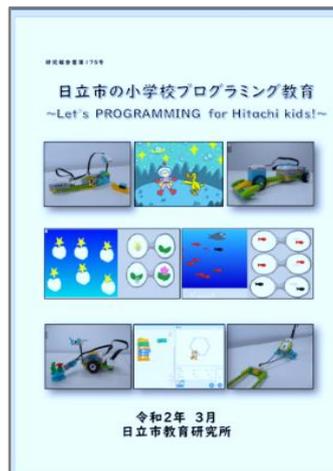


写真：講話を聴く初任者の様子

プログラミング教材の貸出について

○今年度から、小学校でプログラミング教育が実施されます。教育研究所では、校内研修や授業実践において、プログラミング教材（LEGO WeDo2.0 と電気の利用セット）を、学校へ貸出しています。4月22日付で各小学校に送付した、「LEGO WeDo2.0 貸出マニュアル」を参照の上、お申し込みください。（中学校で貸出を希望する場合は教育研究所までご連絡ください。）この機会に、ぜひ、ご活用ください。

○教育研究所ではプログラミング教育に対する不安を少なくし、子どもたちと共に楽しみながら授業をしていただくことを目的として「研究報告書 日立市の小学校プログラミング教育 ~Let's PROGRAMMING for Hitachi kids!~」を作成しました。この報告書では、教材の活用方法や年間指導計画に沿った授業案、日立市内の各小学校で行われた授業実践や、校内研修の取組等を紹介しています。ぜひ、ご参照ください。



<研究報告書> <LEGO WeDo2.0の貸出し [内容]>

<お知らせ>

今年度の教育研究所主催の夏季教職員研修会（「1 職層や経験に応じた研修」「2 専門性を高める研修」「3 特別研修」「4 共催研修」）は、「初任者研修」のみの実施となります。

編集後記

空の青や木々の緑などが鮮やかに映える季節となりました。各校では新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休校に当たり、様々なご対応をいただいていることと思います。初任者研修に参加された、33人の先生方の意欲にあふれた真剣な表情を見ながら、児童・生徒のために、「今、できること」を一つ一つ確実に行っていきたくと、改めて感じました。心配なことが多い中ですが、教育研究所は、子どもたちが安心して園・学校生活を送れるようにするための相談活動や、情報提供に努めてまいります。今後とも、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

（山本）